

第2次野洲市環境基本計画 令和3年度評価一覧(実績報告)

結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99~80)、C…未達成(79~50)、D…大半が未着手(49~1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ
 ※令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、事業中止や規模縮小があったため、結果に影響があったものを「コロナ」と表示

基本目標1、安全で快適な生活環境づくり

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標			結果					
					指標	策定時	目標	H29	H30	R01	R02	R03	
1-1	大気環境 水環境の 保全	大気・水質の 把握 と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・大気環境 ・水環境の監視 ・環境情報の発信 ・排出規制・指導 	健康で快適な 暮らしを守る プロジェクト	・大気汚染に係る環境基準の達成状況 ※NO2(二酸化窒素)、SO2(二酸化硫黄)、SPM(浮遊粒子状物質) (三上小学、駅前北自治会館前、小堤、七間場)	環境基準を達成	維持	A	A	A	A	A	
					・公共用水域の水質汚濁に係る環境基準の達成状況 ※環境基準の類型指定河川(C類型:新川、江口川、童子川、祇王井川、大山川)のBOD(生物化学的酸素要求量)	環境基準を達成	維持	A	A	A	A	A	

傾向	令和3年度評価	課題	方向性の判断
 変わらない	NO2、SO2、SPMについて、測定4地点で、いずれも環境基準以下(NO2については、短期曝露の指針値以下)であった。	特に課題はない	継続 環境保全の遵守すべき項目のため
 変わらない	5河川のBODの値は、いずれも環境基準以下であった。	河川水質の変化については、自然的な要因も大きく関係していると考えられるので、今後も注意深く監視していく必要がある。	継続 環境保全の遵守すべき項目のため

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標			結果					
					指標	策定時	目標	H29	H30	R01	R02	R03	
1-2	生活環境 の保全	騒音・振動の 防止 悪臭および 土壌汚染 対策	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音・振動の監視・規制・指導 ・開発行為に関する助言・指導 	健康で快適な 暮らしを守る プロジェクト	・環境保全協定締結事業所数 91% (107件) (平成27年度)	100%	100%	B 110社 /114社	B 110社 /115社	B 112社 /115社	B 112社 /115社	B 108社 /111社	
					・典型7公害に係る公害苦情の件数 44件 (平成23~27年度の平均)	減少	C 55件	C 52件	C 58件	C 59件	B 46件		

傾向	令和3年度評価	課題	方向性の判断
 変わらない	未加入事業所に対し協定締結を依頼したが締結できなかった。 なお、廃業により締結事業所数が減少した。	本社の方針等で協定締結が困難となっている。	継続
 改善している	典型7公害の苦情件数は前年度比で減少している。	広報・啓発を行い、典型7公害の苦情件数を抑制する。	継続

基本目標1、安全で快適な生活環境づくり

結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99~80)、C…未達成(79~50)、D…大半が未着手(49~1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ
 ※令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、事業中止や規模縮小があったため、結果に影響があったものを「コロナ」と表示

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標		結果																				
					指標	策定時	目標	H29	H30	R01	R02	R03															
1-3	環境美化の推進	不法投棄対策・美化活動の促進	・不法投棄対策 ・環境衛生対策	きれいなまちを守るプロジェクト	・ごみの不法投棄件数(廃棄物不法投棄監視員巡視報告件数)	214件(平成23~27年度の平均)	減少	C	C	C	C	C	<p>(件)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>策定時</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R01</td><td>R02</td><td>R03</td></tr> <tr><th>実績</th><td>214</td><td>264</td><td>284</td><td>293</td><td>281</td><td>279</td></tr> </table>	年度	策定時	H29	H30	R01	R02	R03	実績	214	264	284	293	281	279
年度	策定時	H29	H30	R01	R02	R03																					
実績	214	264	284	293	281	279																					

傾向	令和3年度評価	課題	方向性の判断
 変わらない	不法投棄件数は横ばいであるが、ボランティア清掃活動団体の増加やコロナ禍の影響により令和2年度に中止したごみゼロ大作戦を再開することができた。	不法投棄を減少させる有効な方法の検討	継続

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標		結果																											
					指標	策定時	目標	H29	H30	R01	R02	R03																						
1-4	まちなかの緑化	緑の保全と創造	・公園整備 ・維持管理 ・緑化推進	まちなかの緑づくりプロジェクト	・市民一人当たりの都市公園面積 ※ 野洲市都市公園条例を参照	8.07㎡/人(平成27年度)	10㎡/人	B	B	B	B	B	<p>(㎡/人)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>策定時</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R01</td><td>R02</td><td>R03</td></tr> <tr><th>実績</th><td>8.07</td><td>8.06</td><td>8.06</td><td>8.06</td><td>8.06</td><td>8.24</td></tr> <tr><th>目標</th><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	年度	策定時	H29	H30	R01	R02	R03	実績	8.07	8.06	8.06	8.06	8.06	8.24	目標	-	-	-	-	-	-
					年度	策定時	H29	H30	R01	R02	R03																							
実績	8.07	8.06	8.06	8.06	8.06	8.24																												
目標	-	-	-	-	-	-																												
・河辺林保全活動実施回数・参加者数(のべ)	33回・404人(平成23~27年度の平均)	維持	A	A	A	A	A	<p>(回) (人)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>策定時</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R01</td><td>R02</td><td>R03</td></tr> <tr><th>回数</th><td>33</td><td>39</td><td>36</td><td>37</td><td>34</td><td>32</td></tr> <tr><th>参加者数</th><td>404</td><td>526</td><td>487</td><td>441</td><td>535</td><td>553</td></tr> </table>	年度	策定時	H29	H30	R01	R02	R03	回数	33	39	36	37	34	32	参加者数	404	526	487	441	535	553					
年度	策定時	H29	H30	R01	R02	R03																												
回数	33	39	36	37	34	32																												
参加者数	404	526	487	441	535	553																												

傾向	令和3年度評価	課題	方向性の判断
 やや良くなっている	開発協議の際には、公園配置基準に従い適正な指導を行った。みどりの基本計画を策定し、都市公園等の位置づけを行った。	公園の配置状況、利用状況、地域の意向を踏まえて、公園再編の検討が必要である。	公園緑地の統廃合を含めた再配置、新規都市公園の必要性、代替性、実現性等を整理した整備計画を作成する。
 変わらない	市民団体による河辺林保全活動が計画的・定期的実施され、整備が行き届いている。	市民団体との協働による事業の拡大。	継続

基本目標2、循環型社会・低炭素社会づくり

結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99~80)、C…未達成(79~50)、D…大半が未着手(49~1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ
 ※令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、事業中止や規模縮小があったため、結果に影響があったものを「コロナ」と表示

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標		結果						
					指標	策定時	目標	H29	H30	R01	R02	R03	
2-1	3Rの促進	ごみの資源化の促進 ごみの分別の徹底	・3Rの普及促進 ・グリーン購入推進	ごみの資源化プロジェクト	・リユースステーション利用者数(リユース物品無償譲渡会参加者数)	121人(平成27年度)	維持	C 38人	C 27人	C 30人	B 100人	A 221人	
					・市内で回収した廃食油のリサイクル率	100%(平成27年度)	100%	A 100% 4585ℓ	A 100% 4220ℓ	A 100% 4351ℓ	A 100% 4527ℓ	A 100% 4489ℓ	

傾向	令和3年度評価	課題
良くなっている	令和3年度よりリユースステーションでの常設展示・譲渡を実施した結果、利用者数が増加した。	さらにリユースステーションを利用してもらえるように、広報やチラシ等の媒体を利用し、周知を行う必要がある。
変わらない	市民がいつでも利用できるよう、市内13ヶ所に回収BOXを設置しており、全体の回収量は安定している。また、市民団体が月1回イベント回収を行っており、対面で受け取ることで、リサイクルの促進につながっている。	回収量が少ないBOXについては、更なる周知・啓発を行う必要がある。

方向性の判断
継続
継続

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標		結果						
					指標	策定時	目標	H29	H30	R01	R02	R03	
2-2	廃棄物の適正処理	適正処理の推進 ごみ減量化促進	・分別収集の徹底	ごみ減量プロジェクト	・1人あたりの一般廃棄物の排出量 ※一般廃棄物処理基本計画における目標を参照	738g/人・日(平成27年度)	703.5g/人・日(令和6年度)	C 777.0g/人・日	C 805.5g/人・日	C 748.6g/人・日	C 767.9g/人・日	C 758.6g/人・日	

傾向	令和3年度評価	課題
変わらない	家庭系、事業系ごみ共に総量は減少しており、同じく一人あたりのごみ排出量も減少しているが、目標値には到達していない。	家庭ごみの減量に関する市民啓発。 市民対象にフードドライブの実施の検討。

方向性の判断
事業系ごみについては、H29年から減少しているため、引き続き事業所への減量指導を行う。 家庭系ごみについても、食品ロス削減などの啓発活動を行う。

基本目標2、循環型社会・低炭素社会づくり

結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99~80)、C…未達成(79~50)、D…大半が未着手(49~1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ
 ※令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、事業中止や規模縮小があったため、結果に影響があったものを「コロナ」と表示

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標		結果							
					指標	策定時	目標	H29	H30	R01	R02	R03		
2-3	地球温暖化への対策	再生可能エネルギーや省エネルギーの推進	・省エネ化の推進 ・再生可能エネルギー導入推進 ・交通分野でのCO2排出抑制の推進	地球温暖化対策推進プロジェクト	・クリーンセンターのサーマルリサイクル熱回収率(熱回収量/熱発生量)	—	10%以上	A	A	A	A	A		
					・エコドライブ講習参加者数(のべ)	15人(平成27年度)	増加	C 6人	C 8人	C 6人	E 未実施 コロナ	E 未実施 コロナ		
					・コミュニティバス年間利用者数	52,718人/年(平成27年度)	増加	B 49,614人	A 52,115人	A 55,719人	B 45,180人 コロナ	A 54,446人		

傾向	令和3年度評価	課題
目標を達成した	健康スポーツセンターが令和2年度にオープンし、熱回収率10%は達成している。	特になし
悪化している	コロナ禍のため事業を中止した。当該計画の中間見直しの中で新たに指標を変えている。	CO ₂ 排出量の削減(年2.7%)のために具体的な取組の検討が必要である。
良くなっている	令和2年度に路線の増数・増便を実施し、利便性の向上に取り組んだため、利用者数は増加している。	民間路線バスの運行維持

方向性の判断
目標を達成しているため、中間見直しで計画からは外れたが、引き続き健康スポーツセンターに熱供給を行う。
市内域でのCO ₂ 排出量を明示し、情報提供を通じて省エネ機器の導入や省エネ住宅の普及を促進する。
継続

基本目標3、里山から琵琶湖へつながる自然環境づくり

結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99~80)、C…未達成(79~50)、D…大半が未着手(49~1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ
 ※令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、事業中止や規模縮小があったため、結果に影響があったものを「コロナ」と表示

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標					結果				
					指標	策定時	目標	H29	H30	R01	R02	R03		
3-1 3-3	生物多様性の維持・向上 河川・琵琶湖の保全	外来種対策・希少生物の保護 水環境の保全推進	・生育・生息環境の保全 ・外来生物対策 ・湖岸の保全 ・ヨシ群落再生 ・ビワマス遡上対策	みんなが親しむきれいな川づくりプロジェクト びわ湖を守ろうプロジェクト	・河岸・湖岸清掃活動実施回数、参加者数(のべ) ・環境学習会・体験イベント等実施回数、参加者数(のべ)	10回・213人(平成23~27年度の平均) 維持	維持	A 10回 160人	A 22回 715人	A 32回 820人	A 27回 620人	A 22回 289人 コロナ		
														53回・1,763人(平成23~27年度の平均) 維持

傾向	令和3年度評価	課題
→ 変わらない	琵琶湖保全、河川保全ともに市民団体の活動は継続されているが、大人数での清掃活動はコロナ禍で中止となったため、実施回数および参加者数が減少した。	コロナ禍でも感染対策を徹底して開催できる方法の検討。核となる人材の後継者がいない。
→ 変わらない	コロナ禍により学習会・イベントの中止が相次ぎ、実施回数および参加者数が減少した。	コロナ禍でも感染対策を徹底して開催できる方法の検討。イベント参加者から担い手になる人材が少ない。

方向性の判断
継続
継続

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標					結果				
					指標	策定時	目標	H29	H30	R01	R02	R03		
3-2	里山の保全	森づくりの促進、森林資源の活用促進	・里山の環境保全	里山を守り育てるプロジェクト	・里山保全活動実施回数、参加者数(のべ) ・里山学習会・体験イベント等実施回数、参加者数(のべ)	29回・346人(平成23~27年度の平均) 維持	維持	A 35回 407人	A 46回 377人	A 42回 433人	A 42回 449人	A 49回 543人		
														16回・511人(平成23~27年度の平均) 維持

傾向	令和3年度評価	課題
→ 良くなっている	市民団体の活動が継続して実施されており、参加者が安定的である。	参加者は多いが、核となる人材の後継者がいない。
→ 変わらない	参加者数は安定している。	イベント参加者から担い手になる人材が少ない。

方向性の判断
継続
継続

基本目標3、里山から琵琶湖へつながる事前環境づくり

結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99~80)、C…未達成(79~50)、D…大半が未着手(49~1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ

※令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、事業中止や規模縮小があったため、結果に影響があったものを「コロナ」と表示

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標					結果				
					指標	策定時	目標	H29	H30	R01	R02	R03		
3-4	農地の保全	環境保全型農業の推進、有害鳥獣対策	・環境保全型農業 ・有害鳥獣対策	環境にやさしい農地の活用プロジェクト	・環境こだわり農産物の栽培面積	997 ha (平成27年度)	維持	A 1007ha	B 969ha	B 967ha	B 905ha	B 903ha	<p>(ha)</p> <p>1200 1000 800</p> <p>策定時 H29 H30 R01 R02 R03</p>	
					・有機農業栽培面積	25 ha (平成27年度)	維持	C 18ha	B 24ha	B 24ha	B 22ha	B 23ha		<p>(ha)</p> <p>30 20 10 0</p> <p>策定時 H29 H30 R01 R02 R03</p>

傾向	令和3年度評価	課題
 やや減少している	環境こだわり農産物の栽培面積は減少傾向にある。	令和2年度に国の補助金要件が厳しくなり、環境こだわり農業の認証を取る農家が減少したと推測される。地産地消の促進の方策を検討し、環境こだわり農業の認証を取るメリットを打ち出す必要がある。
 変わらない	有機農業の栽培面積は近年維持している。	地産地消、有機農産物の販売促進を検討する必要がある。

方向性の判断
継続
継続

基本目標4、環境学習の推進による市民活動の促進

結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99~80)、C…未達成(79~50)、D…大半が未着手(49~1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ
 ※令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、事業中止や規模縮小があったため、結果に影響があったものを「コロナ」と表示

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標					結果								
					指標	現況	目標	H29	H30	R01	R02	R03	結果					
4-1	環境学習の推進	ライフステージに応じた環境学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学習機会の拡大 エコスクールの推進 地域での環境学習の充実 	みんなで環境学習プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・前講座等(省エネ・リサイクル関連)実施回数、参加者数(のべ) 	17回・642人(平成23~27年度の平均)	継続		A 17回 706人	A 17回 910人	A 18回 996人	C 11回 431人 コロナ	C 5回 300人 コロナ					

傾向	評価	課題	方向性の判断
→ 変わらない	コロナ禍のため募集型講座を一部中止した。学校への出前講座については、オンラインを利用する等、密を避けながら講座を実施した。その他、例年講座依頼が多く入るが、昨年度同様コロナ禍の為ほとんど実施されず、目標値を下回った。	コロナ禍のため、出前講座をオンラインで開催するなどの対策が必要。	継続

点検番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標					結果							
					指標	現況	目標	H29	H30	R01	R02	R03	結果				
4-2	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動団体等への支援 普及・啓発の担い手の育成・継承 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの場の提供や活動情報の発信 活動団体・活動指導者と市民とを結びつける体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> 地域等での環境学習の支援 重点プロジェクトへの支援 自発的な活動の誘導・支援 協働の推進 人材の育成 	環境活動支援プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンセンターの市民活動拠点における市民活動等実施回数 	—	年1回以上	A 環境フェスタ	A 環境フェスタ	A 環境フェスタ	A 環境フェスタ	A 環境フェスタ					
4-3					<ul style="list-style-type: none"> ・HP情報発信数 	—	月1回	A	A	A	A	A					

傾向	評価	課題	方向性の判断
→ 変わらない	クリーンセンターの活用は年1回の環境フェスタにとどまっている。環境フェスタの中で、地元野菜の販売(地産地消)、リユース、リサイクルに関する教室の他、環境に関する展示等を実施している。	環境フェスタ以外のイベントがない。	継続
→ 変わらない	イベントや環境に関わる内容を適宜HPで発信している。	広報やチラシ、HPでは情報の受け取り側の年齢層に偏りがあるため、SNSでの情報発信が必要。	継続 SNS等の活用